

教育実習

野田中学校に若い男性がやってきました。教育実習生の坂本修平さんです。教員になるために、5月30日（月）から6月17日（金）までの3週間、野田中学校で教育実習を行います。教科は保健体育、学級は1年1組です。

坂本修平先生に、「あなたはどのようにして学校の先生になろうと思ったのですか」と聞いてみました。すると、坂本先生は2人の先生の話をしてくれました。

一人は小学2年生のときの先生です。その当時、坂本先生が抱（かか）えていた困りごとを先生に相談したところ、自分のことを認めてくださり、勇気づけられたそうです。自分の将来を考えたときに、自分の中にその先生の存在があり、教員をめざすきっかけになったとのことでした。

もう一人は、中学時代の理科の先生であり、陸上競技部の顧問の先生です。その先生の理科の授業は、わかりやすく、自分もああいう授業をしてみたいと思えたそうです。また、その先生は、陸上競技が専門ではなかったのですが、熱心に指導して下さり、達成感をもたせてもらえたそうです。その先生と、走り幅跳びで県大会に行ったことを覚えているとのことでした。

教員をめざす人の多くには、坂本先生のように、思い出に残り心からお世話になったと思える恩師（おんし）の存在があるのではないのでしょうか。生徒の皆さんには、自分の人生や生き方に影響を与えている恩師と呼べる先生はいますか。少し、考えてみてください。あるいは、これから、そういう先生との出会いがあるかもしれません。

生徒の皆さんの中には、将来、学校の先生になりたいと考えている人もいることでしょう。ぜひ、その目標に向かって努力を重ねてください。

ここ数年、教員志望者、学校の先生になろうとする人が減ってきています。学校の先生は、いないと困る存在です。世の中には、そういった仕事がたくさんあります。このままいくと、学校の先生が足りなくなるという時代がくるかもしれません。たとえAI（人工知能）が進化・進歩しても、教員という仕事はなくならないと思います。

学校の先生は確かに大変です。人を相手にするため、難しさもあります。専門性も必要です。しかし、それは裏を返せば“やりがい”とも言えます。仕事というものは、大変なものですが、そんなに楽なものではありません。

生徒の皆さん、学校の先生をめざしてみませんか。坂本先生は、野田中学校の卒業生です。数年後、一人でも多くの卒業生が、教員をめざして、この野田中学校で教育実習を行うことを願っています。